



トランスアカデミープロジェクト報告書

平成 22 (2010) 年 3 月 31 日

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

CSCD 教務・FD 委員会

トランスアカデミー運営実行委員会

平成21年度 プロジェクト経費実施報告書

プロジェクト代表者氏名(池田光穂)

プロジェクト名	トランスアカデミー:高度教養教育の未来
メンバー	CSCD教務委員会(池田、森栗、藤田、西村、平川、金谷、伊藤、清水、菅)ならびにトランスアカデミー実行委員会(池田、清水、花村、久保田、西川)
期間	平成21年度
予算額	30万円
目的	CSCDの教員の資質向上(ファカルティ・ディベロップメント[FD])を目的として、大学院生が大阪大学の高度教養教育に対してどのようなビジョンをもつのか、大学院の教育改革にとっての大きなステイクホルダーたる院生の生の声をCSCD教員が聴き、情報交換をおこなう。
実施内容	<p>これまでのCSCD授業を受けてきた大学院生の中から各教員が推薦した者に、「大阪大学の高度教養教育に関する現場の院生(学部生を含む)に、パワーポイント等のプレゼンテーション・ファイルを作成し、オレンジショップにおいて発表会を平成21(2009)年12月4日にオレンジショップにおいておこなった。</p> <p>当日のプレゼンテーションに参加した院生は9名(当初予定11名)で、事前の説明会を、2009年11月19日、24日、26日および12月1日に実施した。</p> <p>学生・大学院生約25名(留学生2名)とCSCDおよび他部局の教員約15名のあわせて約40名の参加を得た。</p>
成果	<p>行事は平成21年12月22日(火)13時~17時に開催されたシンポジウム「大阪大学におけるデザイン力とコミュニケーションデザイン」のイベントとして企画された。シンポジウムが、各部局の研究科長からの高度教養教育ならびにCSCDへの期待や希望を聞き出すイベントに対して、大学院生主体の本シンポジウムは、CSCDの授業を受けた側からの高度教養教育への辛口の注文という生の声をCSCD教員が聞いたことは、大きな成果があったと判断することができる。</p>

TRANSACADEMY

トランスアカデミー：高度教養教育の未来

日時：2009年12月4日(金) 18:15-19:45

場所：オレソジヨツプ（豊中キャンパス内 基礎工学部1棟1F）

〈高度教養教育のキャリアキュラム〉の整備状況、

着々と進む全国の大学院主導による
……でも待てよ！ ステイクホルダーたる院生たちの意見や要望は、

政府や大学院のお偉方に〈きちんと聴かれている〉のか？

院生による問題提起、そして、CSCD 教員を含めた参加者全体の討論により、
高度教養教育とその未来像を探る。

どなたでも乱入可能!!!

終了後、簡単な茶話懇親会があります。

主催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)

運営：CSCD トランスアカデミー実行委員会組織

CSCD
Center for the Study of
Communication Design

CSCD・FDシンポジウム2009 はじめに よんでください

トランス・アカデミー：高度教養教育の未来

パネリスト参加への手引書 Ver.3.0

トランスアカデミー実行委員会組織



クレジット：CSCD・FDシンポジウム2009「トランス・アカデミー：高度教養教育の未来」パネリスト参加への手引書 Ver.1.0

TRANS-ACADEMY : the future shock for the New-Type of Higher/Advanced/Active "general" Learning in Osaka University, Japan !!!

ようこそ！ 大阪大学大学院の全研究科における全学共通のニュータイプの学習についてご意見を寄せてくれる勇気ある戦士のみなさんへ このページは2009年12月4日（水）18時に大阪大学豊中キャンパス・オレンジショップで開催されるCSCD・Faculty Development (FD) シンポジウム2009「トランスアカデミー」に参加していただく、院生・学部生・社会人の方々への発表までのガイドを示すものです。

公式のアナウンスメント&ステートメントはこちらです

日時：2009年12月4日（金）午後6時15分から午後7時45分まで

場所：**豊中キャンパス内（オレンジショップ）** [[→アクセス情報](#)]

イベント内容：高度教養教育に関する院生と教員懇談討論会の形式で、各授業の受講生などから、高度教養教育に関心のある院生を中心としたパネラーを募り、各発表約5分のプレゼンテーション（パワーポイント1～2枚を用意）をしてもらい、その後CSCD教員（正副センター長さらに平田オリザ先生も参加!!!）を含めた参加者全体で討論をおこないます。7時45分終了後、簡単な茶話懇親会を同じ会場でおこないます。

主催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）

運営：トランスアカデミー実行委員会組織（[池田光穂](#)・清水良介・花村周寛・久保田テツ・西川勝・塩月論、およびパネラーの皆さん）

サポート：パネラーの皆さんにはLaCie iamaKey USB Flash Drive 8GB LaCie社製を貸与（予定）しますので、当日のスライド原稿（マイクロソフト社パワーポイント）をこれに入れてご持参ください。

事前説明会の日程：開催場所CSCD（大阪大学豊中キャンパス）**※事前説明会はオレンジショップではありません。**

注意してください！

- 1. 11月19日（木）午後6時30分～午後7時 CSCD派遣教員室（407号室）
- 2. 11月24日（火）午後7時～午後7時30分 CSCD派遣教員室（407号室）
- 吹田地区でのイベントは西川先生により保健学科の院生にのみ提供されます！
- 3. 11月26日（木）午後6時30分～午後7時 CSCD派遣教員室（407号室）
- 4. 12月1日（火）午後7時～午後7時30分 CSCD派遣教員室（407号室）

[場所] 大学教育実践センター自然科学棟（一般教育棟1）4階CSCD [[→アクセス情報](#)]

これらの日程のうち何れか1回を必ず受けてください。説明会の所要時間はおよそ30分未満。参加される場合は、できれば事前に担当者（池田 rosaldo [atmk] cscd.osaka-u.ac.jp : [atmk] はアトマーク）にメールをお送りください。またこのいずれも受けられない場合は、別途対応しますので、同メールアドレスか研究室直通電話：06-6850-6636 までおかけください。

事前説明会で配布される資料は、『高度教養教育推進ワーキング報告書』、プレゼン用USBメモリー等です。

パンフ・ちらし・ハンドアウト：（pdfです。プリンターの「用紙にあわせる」でお好みの用紙サイズで印刷できます）

[[TransAcademyPro_ver3.2.pdf](#)] サイズ 132K

オフィシャルのステートメント&アナウンスメントは [[こちら](#)]



[画像をクリックすると単独で拡大します](#)

資料編

『高度教養教育推進ワーキング報告書（抄）』のpdf（資料名：[koudoKYOYOkyouiku09.pdf](#) 約472K）[リンクにてダウンロード](#)

下記の文章は、大阪大学本部の教育・情報室から、全学の教員がこの件についてどのように考えているのか、ひろく意見を聴取するために、2009年の後半に各部局（つまり大阪大学の研究科やセンターなど）に照会したアンケートの一部です。先の資料と相互参照することにより、大阪大学当局が「高度教養教育」に対して、どのように考えているのかがある程度わかるようになっています。

資料：教育・情報室から各部局への照会事項

(1) 高度教養教育について

高度教養教育とは、「一定の専門的知識を身につけ、(職業人あるいは研究者として)社会にまもなく出て行く学生に対して、専門教育以外に必要な知識や能力を与える教育」と定義し、次期中期計画において、学部後期及び博士前期課程の学生を対象として実施することを考えております。……「高度教養教育推進ワーキング報告書」(引用者=池田註：今回のパネラーには配布予定)の内容等を踏まえ御意見等をお聞かせください。

(2) 高度教養教育科目の開講について

高度教養教育科目の開講については、全学で開講されている科目の中から「高度教養教育科目群(案)」(別添資料P 8参照)の趣旨に近い科目を洗い出し、高度教養教育科目としての開講を依頼するとともに新たに高度教養教育科目を開講いただくことを考えております。ついでには、高度教養教育科目の開講について、御意見をお聞かせください。

(3) 学生による自主的エフォート管理の実施について

高度教養教育科目を履修するにあたっては、学生が終日研究室で過ごすカルチャーを変えることが重要であり、学生によるエフォートの自主管理(※詳細は、別添資料P 1 2参照)を提案したいと考えております。これは、研究者がエフォート管理を求められているように、学生にも、例えば、専門研究のうちの20パーセントを自らの将来のキャリアを想定した上で、専門研究以外の活動に振り向ける自由を認めようというもので、その20パーセントを、高度教養教育の履修やその他の学習活動に振り向けてもよいし、多様な社会活動に参画することもよいと考えております。研究生活においては、エフォート100パーセントで研究に打ち込むことが必要な時期が存在することは当然ですが、一方で自らの研究を外から眺める視点を持つことが、長期的には研究そのものに益をもたらすと考えます。必ずしも数字によるエフォート管理に限定せず、この「学生による自主的エフォート管理という考え方」について御意見をお聞かせください。

(4) その他

その他、高度教養教育に関連して、今後新たに設置されるWGで検討すべき事項等について、何か御意見等がございましたらお聞かせください。

(c) The Trans-Academy Activist Group (TAAG) by CSCD, Osaka Univ., 2009

大阪大学 大阪大学KOAN C S C D

CSCD・FDシンポジウム2009 はじめに よんでください

トランス・アカデミー：高度教養教育の未来

(本編)

TRANS ACADEMY
トランスアカデミー：高度教養教育の未来

日時：2009年12月4日(金) 18:15 - 19:45
場所：オレンジショップ (豊中キャンパス内 基礎工学部I棟1F)

着々と進む全国の大学院主導による〈高度教養教育のカリキュラム〉の整備状況。
……でも待てよ！ステイクホルダーたる院生たちの意見や要望は、
政府や大学院のお偉方に〈きちんと聴かれている〉のか？
院生による問題提起、そして、CSCD 教員を含めた参加者全体の討論により、
高度教養教育とその未来像を探る。
終了後、簡単な茶話懇親会があります。どなたでも乱入可能!!!

主催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD) 運営：CSCD トランスアカデミー実行委員会組織

(本編) トランスアカデミー実行委員会組織：画像をクリックすると単独で拡大します。

高度教養教育ってなんだろう？ 現在、全国の大学や大学院組織（研究科）で、高度専門職業人にこの「高度教養教育」が必要だと言われ、さまざまな試行プログラムが走っているという。大阪大学でも、2008（平成20）年度から始まったCSCDの高度副プログラムを皮切りに、現在20種類の大学院高度副プログラムが進行しており、現在では大学院の主専攻・副専攻などの実施についての協議が始まっているらしい。

しかしながらこれらの挑戦的な教育（education）いや学び（learning）のプログラムについての真の受益であるところの、大学院生・学生・そして聴講生たる社会人に対する意見表明の場が提供されているだろうか？ これまでの大学院教育が学生の受動的な教育（passive education）であったとすれば、新しい学びはより能動的なもの（active learning）でなければならない……

とすれば、この新しい学びの機会に、未来の受益者（＝享受できる者）である大学院生を中心とした学生の意見表明は不可欠であろう。ご存じようにコミュニケーションデザインセンター（CSCD）は、専門家と市民との間の良好なコミュニケーションの機会を創造する組織だと言われてきた。さすれば、CSCDは、大学と大学院生の間を新しい学びについての議論というコミュニケーションの場もまた提供することが期待されていることは言うまでも

ない。

なおこのトーク・バトルはシンポジウム「大阪大学におけるデザイン力とコミュニケーションデザイン」のイベントです!!!

日時：2009年12月4日（金）午後6時15分から午後7時45分まで

場所：豊中キャンパス内（オレンジショップ） [[→アクセス情報](#)]

イベント内容：高度教養教育に関する院生と教員懇談討論会の形式で、各授業の受講生などから、高度教養教育に関心のある院生を中心としたパネラーを募り、各発表約5分のプレゼンテーション（パワーポイント1～2枚を用意）をしてもらい、その後CSCD教員（正副センター長さらに平田オリザ先生も参加!!!）を含めた参加者全体で討論をおこないます。7時45分終了後、簡単な茶話懇親会を同じ会場でおこないます。

主催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）

運営：トランスアカデミー実行委員会組織（[池田光穂](#)・清水良介・花村周寛・久保田テツ・西川勝・塩月諭、およびパネラーの皆さん）

パネラーへの事前説明会の日程：開催場所CSCD（大阪大学豊中キャンパス）**※オレンジショップではありません。注意してください！** [[→事前登録のパネラーの方はこちら「パネリスト参加への手引書」です](#)]

パンフ・ちらし・ハンドアウト：（pdfです。プリンターの「用紙にあわせる」でお好みの用紙サイズで印刷できます）

[[TransAcademyPro_ver3.2.pdf](#)] サイズ 132K

【本編】スライドをクリックすると単独で4倍（面積）ほどの大きさになります

主催者側説明

CSCDと高度教養教育

- 「CSCDは2005年度以来、全研究科の大学院生を対象に、コミュニケーション教育を実施すると共に、副プログラムも提供している。ここでの科目群は**高度教養教育の中核になる**と考えられている」
- 推進WG『高度教養教育推進ワーキング報告書』p.9
2009年3月 [以下同様]

03 CSCDと高度教養教育

「CSCDは2005年度以来、全研究科の大学院生を対象に、コミュニケーション教育を実施すると共に、副プログラムも提供している。ここでの科目群は高度教養教育の中核になると考えられている」

推進WG『高度教養教育推進ワーキング報告書』p.9 2009年3月 [以下同様]

WGの提起した定義

- 「一定の専門知識を身につけ、（職業人あるいは研究者として）社会にまもなく出て行く学生に対して、**専門教育以外に必要とされる知識や能力を与える教育**」（2009：1）

04 WGの提起した定義

「一定の専門知識を身につけ、（職業人あるいは研究者として）社会にまもなく出て行く学生に対して、専

門教育以外に必要とされる知識や能力を与える教育」（2009：1）

WGの定義の問題点

- 1. 専門教育以外の知識や能力だと、何でも入ってしまい、その中核たるそれらを何も示していないことになる。
- 2. 対話型を謳うCSCDは、「知識を与える」Educationから「能動的に学ぶ」Learning を志向しており、この流れに逆行するのでは？

05 大阪大学高度教養教育ワーキンググループ（以下、WG）の定義の問題点

1. 専門教育以外の知識や能力だと、何でも入ってしまい、その中核たるそれらを何も示していないことになる。
2. 対話型を謳うCSCDは、「知識を与える」Educationから「能動的に学ぶ」Learning を志向しており、この流れに逆行するのでは？

WGの想定する科目群

- 〈知識と理解系〉と〈能力系〉の2本柱
- 知識と理解系：リベラルアーツ、研究基盤力、市民社会対応の下位3グループ
- 能力系：健康、市民社会参加協力、コミュニケーション、マネジメント、クリティカルシンキング、実践的外国語の下位6グループ

06 WGの想定する科目群

〈知識と理解系〉と〈能力系〉の2本柱

知識と理解系：リベラルアーツ、研究基盤力、市民社会対応の下位3グループ

能力系：健康、市民社会参加協力、コミュニケーション、マネジメント、クリティカルシンキング、実践的
外国語の下位6グループ

WG科目群の問題点

- 理論と実践、基礎と専門という発展的二元論に縛られた古典的啓蒙の発想にあるのでは？
- この〈教養教育〉のグループ分けは、大学教育実践センターで開講されている〔多少なりとも上級の〕授業の大学院版なのか？
- 能動的に学ぼうとする大学院生にとって本当に魅力的なメニューなのか？

07 WG科目群の問題点

理論と実践、基礎と専門という発展的二元論に縛られた古典的啓蒙の発想にあるのでは？

この〈教養教育〉のグループ分けは、大学教育実践センターで開講されている〔多少なりとも上級の〕授業の
大学院版なのか？

能動的に学ぼうとする大学院生にとって本当に魅力的なメニューなのか？

WGならびに大阪大学の課題

- 『高度教養教育推進ワーキング報告書』に示された内容を、いち早く、その未来の受益者たる大学院生に開示し、ひろく意見をもとめるべきだ！
- 学ぶ主体が、能動的に学ぶ内容について意見・見解・見識をもつという認識論こそが、大阪大学にもとめられているのではないか？

08 WGならびに大阪大学の課題

『高度教養教育推進ワーキング報告書』に示された内容を、いち早く、その未来の受益者たる大学院生に開示し、ひろく意見をもとめるべきだ！

学ぶ主体が、能動的に学ぶ内容について意見・見解・見識をもつという認識論こそが、大阪大学にもとめられているのではないか？

トランスアカデミーの構築

- 大学院生・学部生・社会人の立場から、これまでうけてきた高度教養教育（=CSCD）についての経験・感想・批判・提言などを示してもらう
- パワーポイントのスライド1～2枚
- プレゼンテーションの時間は5分
- 質疑は事実関係にのみ最高1件のみ、討議は全員の発表が終了してからおこないます

09 トランスアカデミーの構築

大学院生・学部生・社会人の立場から、これまでうけてきた高度教養教育（＝CSCD）についての経験・感想・批判・提言などを示してもらう

パワーポイントのスライド1～2枚

プレゼンテーションの時間は5分

質疑は事実関係にのみ最高1件のみ、討議は全員の発表が終了してからおこないます



トランスアカデミー：高度教養教育の未来
大阪大学豊中キャンパス
オレンジショップ
2009年12月4日(金)

高度教養教育について思ふこと



大阪大学生命機能研究科
飯島玲生

飯島：高度教養教育について思ふこと

こんな授業が必要・・・かもしれない

- ・秘境へ行く授業、無人島で合宿
「教養はいるのか？」
- ・たこ壺体験2泊3日
「たこ壺を知っているか？」
- ・学生が先生に教える授業
「何を教えられる？」
- ・パーティを企画、開催
「飲みながら、教養」
- ・コスプレWS、萌えカフェ
「異文化交流。たかがサブカルチャー、されどサブカルチャー。」

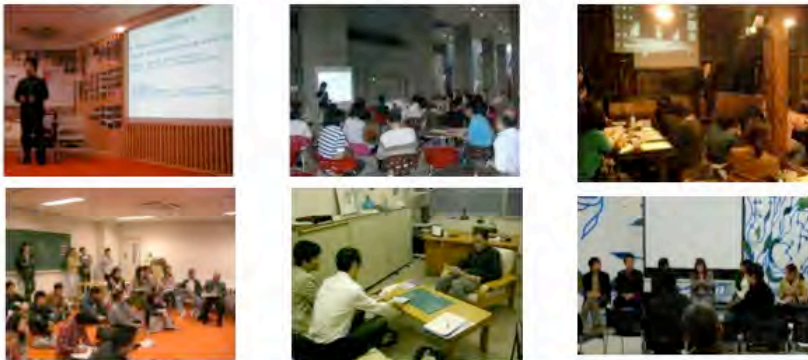


飯島：高度教養教育について思ふこと

私は専門教育とCSCDの授業を1つ取った

私の高度教養教育

2007年9月、CSCDの授業をきっかけに・・・



実施日	企画名	場所	参加者数
2008年5月16日	第1回 院生によるサイエンスカフェ 「本当に役立つものを作るために」	大阪府 阿倍野王子商店街	15名程度（一般15名程度）
2008年6月19日	「いま」を聞く、語る。	大阪大学豊中キャンパス	32名程度
2008年7月24日	「社会と科学をつなぐ」での活動報告	大阪大学豊中キャンパス	20名程度
2008年7月27日	「20代の回り道」	大阪府 大阪市立科学館	50名程度
2008年10月25日	「まち」研究と商店街	大阪府 大阪市北区雲洲堂	20名程度
2008年10月30日	「まち」研究と商店街	大阪大学豊中キャンパス	37名（学生21名、教員4名、一般12名）
2008年11月21日	第2回 院生によるサイエンスカフェ	大阪府 阿倍野王子商店街	6名程度
2008年11月22日～24日	サイエンスアゴラでの活動報告	東京都 日本科学未来館	8108名（来場者数）
2008年12月16日	京都学園大学での講義	京都府 京都学園大学	100名程度（「科学技術史」の受講生）
2009年3月9日	「研究駅伝 Research Relay Talk」	大阪府 中之島アートエリアB1	20名程度
2009年6月30日	「オス！オウ、〇〇」ワシが博士は、」投稿者体験分科	大阪大学豊中キャンパス	48名
2009年10月28日	10年後の「大阪」	大阪大学吹田キャンパス 理工学図書館	17名
2009年10月31日～11月1日	サイエンスアゴラでの活動報告	東京都 日本科学未来館	8705名（来場者数）
2009年11月1日	全国で活躍中！学生が行う科学コミュニケーション	東京都 日本科学未来館	30名程度
2009年11月9日	知的書評合戦～ビブリアバトル～	大阪大学豊中キャンパス	20名程度
2009年11月10日	筑波大学特別講演「情報社会と大学、でも心はどこまで？」 ～おもちワークショップで遊び「再発見」～	大阪大学豊中キャンパス	10名程度

上から時計回りに種別別総括図の掲載

得たもの



考えたこと



上から時計回りに種別別総括図の掲載

しふと、シフト、shift_[and/or sift]



大阪大学理学部数学科
鈴木竜太

鈴木、しふと、シフト、sift[sift]

大学の授業はぬるいのに、不自由

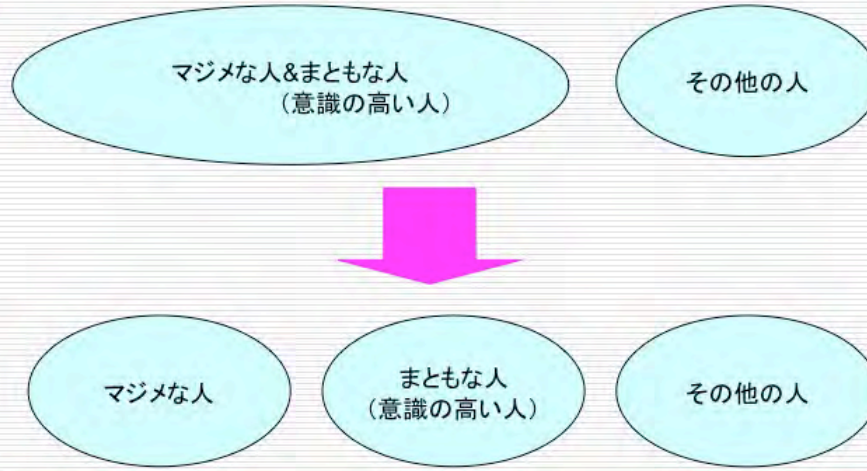
- 出席点に縛られる授業
- 出来る人には不十分な授業内容
- 自分で本を読んだほうが早い授業



どこまでいっても、
「**授業で何かを教え、何かを学ぶ**」
という図式！？

鈴木、しふと、シフト、sift[sift]

分け方のシフト



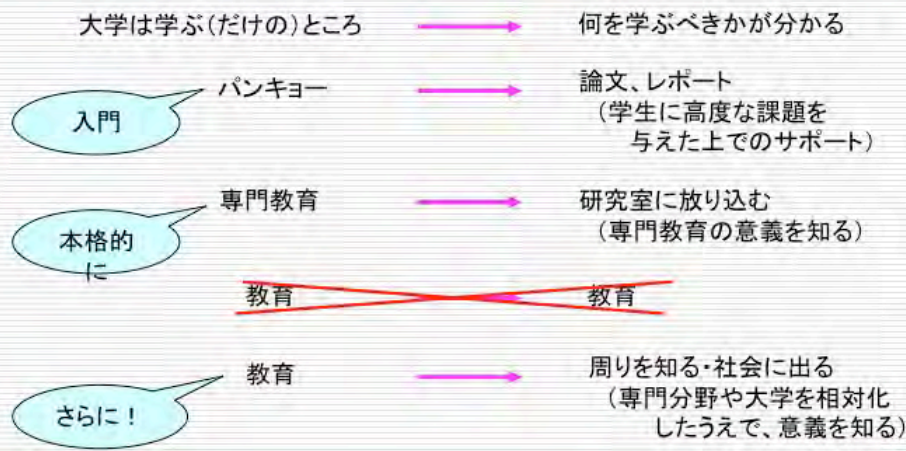
鈴木 しみと、シフト、sift[sift]

カリキュラムのシフト

	マジメな人	まともな人 (意識の高い人)	その他の人
パンキョー (学部教養教育)	◎	△	×
論文、レポート提出カリキュラム			
専門教育	◎	△	×
研究室に放り込むカリキュラム			

鈴木 しみと、シフト、sift[sift]

教育のシフト



新米しふと、シフト、shift[shift]

とりあえず書いたもの

- 学部学生の鈴木竜太と申します。今回は、久保田さんのご推薦があって、このような場にお呼びいただいたことをうれしく思います。
- 当初は、久保田さんごとのお話を拝見しただけで、「鈴木君の、アグレッシブさに期待してる。」と言われたので、今日は、まじめに王道色の意見を述べようつもりで、かなり固った話をしたいと思っておりました。(それが僕の得意なところでもあります。)
- 学部生にとって、教養教育というのは、俗に言う「パンキョー」なわけですが、私がそこから得る経験と、印象についてをまずお話ししたいと思います。パンキョーに対する反応は色々ですが、楽しかった。ためになったという好印象を覚えているのは、比較的異質な人であり、それ以外の人によっては、ただの義務と化しているというのが率直な印象です。
- ここで注意すべきは、高学歴の多い人と、まじめな人というのはイコールではないということです。同年代で学歴の高い人をなかなか見ないので、なんとも言えませんが、それらの人の印象は、「ほとんど、どうしようもないけれど、いい授業はよかった」というところに収束すると思います。
- その、いい授業というのは、私が分析するに、モチベーションが上がる授業、それをきっかけにして、なにかをやりたくなる授業だと考えます。その観点からすると、教育が授業という概念に陥っている限り、いい教育はありえない。
- 私が当初とする「パンキョー」とは、入学から一年半後に論文か、レポートを提出して、審査される。審査に通れば、上にあがれるというものです。授業形式の教育は、それをサポートする形の、リサーチデューティー養成講座や、各種講演会などを、開催することで十分でしょう。
- こういった話をすると、真っ先に出てくるのが、どう評価するのかという話です。私にはこの問いはまことに愚問に聞こえます。というのも、評価のために教育があるのか、教育のために評価があるのか、そこに取捨選択があるのではないかとすら思うからです。いい教育があるのであれば、それにそった評価方式を考えるのが、余りなのではないでしょうか。
- 今の、教育の方向性はすべてを否定しようとする流れにあるような気がしてなりません。つまり、なんでも教えれば「いい」とそれにとまらず、学び方や、気付き方、多様な視野を持つことなどをすべてを教えれば「いい」と、高学歴の多い人にとって、それは窮屈な束縛以外の何物でもありません。いつの時代にも、道は自分で方法を獲得して自分の力で道を歩いていくのではないのでしょうか、わからなかったら、人に聞く、本を読む、これができればほっそり生きていくことも、困らない。
- 公の議論を無視して、私の思いを言えば、そういった人こそ伸ばすべきであり、そうでない人のために、犠牲にしてはならないと思っています。出席点と、必修カリキュラムがその最大の脅威であり、人は学びたいときに、学びたいものを、学びたい方法で学ぶことが尊厳だと感じています。
- 具体例を挙げたい。「パンキョー」を論文制にすることは前に述べたが、専門教育については、とりあえず研究室に放り込むことが有効だと考える。自分がこれらから専門教育を受ける意義を理解できると留まらず、わからない状況にどう対処するかという重要な能力が身につく。
- この話を、大学で学ぶ意義などに拡張すると、インターンなどになるのではないだろうか。大学では、何を学ぶけれども、何を学びたいかは、基本的にはわからない。インターンなり、社会の様々なステークホルダーの人に会うことにより、自己を社会の中で相対化し、自分が本質的に何をしたいたいのかが浮き出てくるようになる。
- 私自身、身体が一年一ヶ月間東京でインターンをしていたのだが、大抵に帰ってきて、用あって大学に行き、重要に行った。そこでジェージをきた学生が数人で出会ったのをみた。普段なら見慣れている光景なのだが、その瞬間私は、「ああ、大学はネバーランドだ。」と思ってしまった。(やりたいことをやりつくせるという可能性もあるので、ネバーランドのよしあしを言っているわけではない。)
- 補足
- 教養主義を押し付ける年寄り
- オナープログラムという取り組み
- ディスカバリーセミナー・基礎セミナー：学生をまひしばしおえないう→高度な課題を与えて、達成のサポートをする(まじりに卒業)なぜなぜ学ぶのかという点が疑問

新米しふと、シフト、shift[shift]

 **CSCD・FDシンポジウム2009**
 医学系研究科保健学専攻 清水知子

物事に対する考え方・姿勢の変化

Before	After
臨床に身を置く 看護職としては・・・	CSCDの授業では・・・
目の前の患者に対して、何が できるのか、答えを早急 に出さなくてはならない	答えを出す必要がない、 明確化しなくてもいいこ とが多い
<ul style="list-style-type: none"> ● 割り切らなくてはならない現実 ● 明確な結論が早急に必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 割り切れない自分がいていい ● さまざま考え方が交差する
すぐに答えを求めてしまう	ひとつの考えに固執しない
即断力・決断力を重視	議論を楽しむ 考える幅を広げる

CSCD・FDシンポジウム2009

私が考える高度教養教育とは
 自分の人生をもう少し面白くするのに必要なこと

感受性を豊かに持つこと
 との重要性の再認識

自分とは違う意見や曖昧な
 ことを受け入れる態度・姿
 勢

疑いを持つ思考
 リテラシー

清水知子 2009 



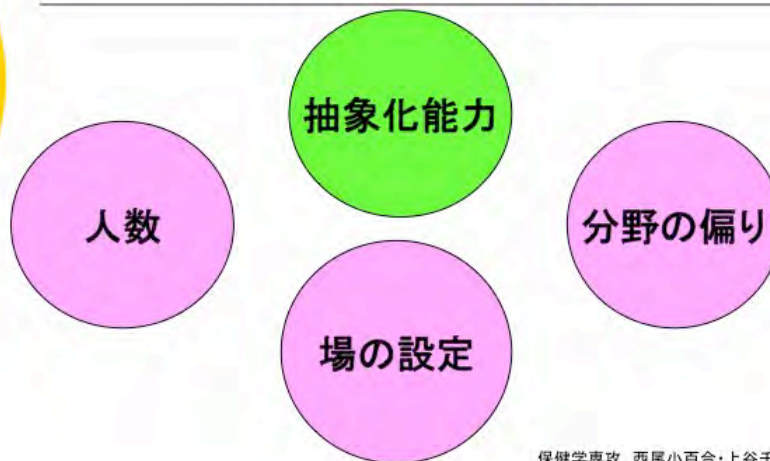
高度教養教育を受けて よかったこと

専門分野以外へ視野が広がり、
違う切り口で物事を見ることができた

保健学専攻 西尾小百合・上谷千夏



高度教養教育への 私たちの希望



保健学専攻 西尾小百合・上谷千夏, 2009

教養教育に物申す！

KAITA IMAI

SCHOOL OF ENGINEERING OSAKA UNIVERSITY

2009/12/04 @ ORANGE SHOP

K.Imai © 2009

大学院生とは誰ぞや？

- ◆ 研究科によって特性が違う！
ex) 工学研究科
 - ・ 学部からの院進学率 80% 越え
 - ・ 強いモラトリアム性
 - ・ 教養力強化に低いモチベーション
- ◆ 4年間で勉強した知識は、
5年間の勉強で淘汰される。
- ◆ 大学で学んだ最先端の Technology も
2～3年で古くなる。

大学で学ぶのは、専門知識だけでいいのか！？

平成 20 年度 卒業生の進路
大阪大学以外より

学部	大阪大学院進学 (%)	その他 (%)	就職 (%)
計	~45	~55	0
基礎工学部	~85	~15	0
工学部	~80	~20	0
美術部	~10	~90	0
歯学部	~10	~90	0
医学部	~10	~90	0
理学部	~40	~60	0
経済学部	~10	~90	0
法学部	~40	~60	0
外国語学部(英)	~10	~90	0
人間科学部	~10	~90	0
文学部	~10	~90	0

OSAKA UNIV. KAITA IMAI

K.Imai © 2009

Why Higher?

高度教養教育の定義

「一定の専門的知識を身につけ、（職業人あるいは研究者として）
社会にまもなく出て行く学生に対して、**専門教育以外に必要と
される知識や能力を与える教育**」

むしろ「問題を正しく捉え、解決に必要なスキルや知識を自ら学ぶ力」
こそが求められる力であり、教養力ではないか？

- ◆ “学ぶことを学ぶこと (Learn how to learn)” ができるのは大学まで。
- ◆ 学生の主体性と能動性が不可欠である。
- ◆ 学部後期で中断することなく、教養教育は継続される必要がある。
- ◆ スキル教育は、専門学校などに任せましょう。（大学がやるべきでない）



OSAKA UNIV. KAITA IMAI

K.Imai © 2009

For Self-Motivated Learner

少しだけ具体的に、

“Project based Learning” と “Problem based Learning” の実施！

学部前半～後半： Project based Learning

ある程度枠組みが設定された Project を学際的に取り組む。

学部後半～大学院： Problem based Learning

Problem を自ら提起し、Project を立ち上げ、その解決に取り組む。

- ◆ Project を通じて、学生は「コミュニケーション力」、「批判的思考」、「市民性」
などを実践的に、主体的に学ぶ。
- ◆ 必修化、単位制や副専攻認定のようなケチくさいことはしない。
(学生のインセンティブにはならないし、主体性を削ぐことになる)



OSAKA UNIV. KAITA IMAI

K.Imai © 2009



「研究の社会的責任」を受講して

理学研究科
久山 尚紀

したことえたこと

- 先生の軽妙なご講義
- 学生による卒業研究／修論テーマの発表

- プレゼンの機会
- 文理を超えた異分野の知識
- 友好 →



久山尚紀 2009

言語文化研究科 田中志緒理

【設計・企画・計画・意匠・装飾・方策・資源・策略】

Design

||

問題解決

世界や社会の問題、また自分や自分の周囲が持っている問題を発見する。

⇒ それらをどのようにして解決するか。

+ 主体性・積極性

※スライド写真はぼかしています：ヘッダー「すれ違いから学びあいのコミュニティへ」



スライドはぼかしています：ヘッダー「知識の伝授から「参加」へ」



スライドはぼかしています：ヘッダー「教室の中から外へ」



高度教養教育

現状(学生視点)の課題

- ・研究室以外との関わりが無く、院生が変人になっている
- ・コミュニケーション能力が必要なときに取れない
- ・緊張が足りない・場面が少ない

教養として欲しい力

<能力系>

コミュニケーション能力

マネジメント能力

<知識・理解系>

倫理、社会、語学などどれかを長期的

基礎工学研究科 岩井俊樹 © 2009

CSCDの授業を受けて

- ・授業としてはいいが教養教育としては足りない
- ・ディスカッションや話し合い主体の授業はいい
- ・他専攻・社会人との交流に良い
- ・演劇ゼミのような学生主体で動かす授業があるといい

基礎工学研究科 岩井俊樹 © 2009

(c) The Trans-Academy Activist Group (TAAG) by CSCD, Osaka Univ., 2009